

平成25年度 埼玉県嵐山町立菅谷小学校 実施結果概要

(様式5-2:モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)にかかわる学校支援制度

実施結果報告書)

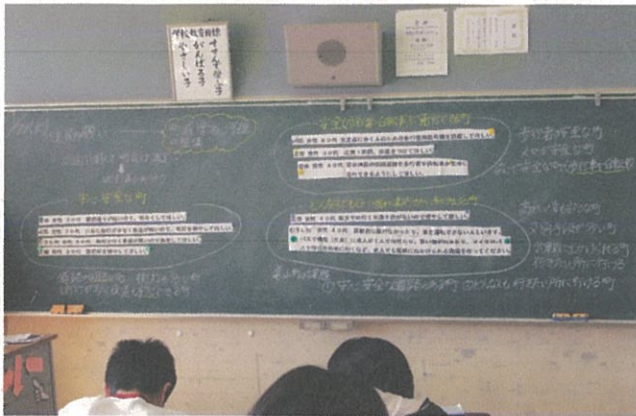
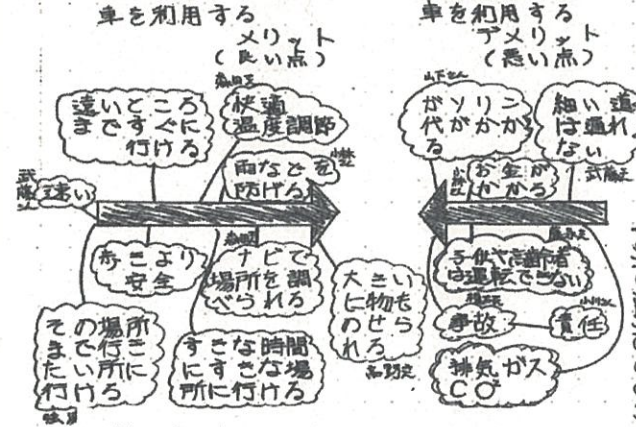
実施結果報告書

1. 学習名称: 誰もが暮らしやすい嵐山町を考えよう ~人にやさしい交通まちづくり~					
2. テーマ: ノーマライゼーションの視点に立った交通まちづくりを考える授業の工夫					
3. 実施教科: 社会科					
4. 関連単元: わたしたちの願いを実現する政治					
5. 実施単元数: 1					
6. 学年	6	7. クラス数	1	8. 生徒数	29
<p>9. 実施内容</p> <p>社会科の「わたしたちの願いを実現する政治」の学習において「調べる過程」で、子どもたちが通学路として使う「町道菅谷3号線」の整備について調べていくことを通して、わたしたちの生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、まちづくりには人々の願いが生かされていること等を学習した。その上で単元後半の「まとめる・生かす」過程において、自分たちの住むまちの交通に関する課題を見つけ、ノーマライゼーションの視点に立って解決・改善策を考え町役場やバス会社に提案する学習活動を取り入れた。</p> <p>本実践で児童が学んだ内容</p> <p>①わたしたちの住む国や地方公共団体の政治は、わたしたちの代表がわたしたちの願いを実現させながら進め、わたしたちの生活の安定と向上を図るために大切な働きをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「町道菅谷3号線」の整備事業を調べることで、町役場や町議会の働き、租税の役割、国の政治の働きを学んだ。 <p>②嵐山町の道路や路線バスなどの交通環境には課題があり、町民はその解決を願っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民アンケートの結果を調べて、交通に関する町民の要望や町の課題について考えた。 ・車利用の長所と短所について考え、学習問題「環境によく誰もが移動しやすいまちにするための提案書を考えよう。」を立てた。 <p>③嵐山町は町民の願いを実現するために、バス事業を通して町民の移動手段の確保に努めているが、課題も残されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町役場の地域支援課の方にゲストティーチャーとして来ていただき、町のバス事業について話して頂き、町内を走るバスの現状や課題について学習した。 <p>④嵐山町には、多様な立場の人たちが暮らしていて様々な交通手段や交通環境の工夫が必要とされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町の地図資料と町民カードを使って、町内には様々な交通環境の地域があり、多様な立場の人が暮らしていることを知り、交通まちづくりへの視点をもった。 <p>⑤嵐山町の交通環境の課題解決のためには、町が利用者環境に配慮したまちづくりの工夫が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案書の作成を通して、ノーマライゼーションの視点に立った交通まちづくりの工夫を学習した。 <p>⑥嵐山町の交通環境の課題解決のためには、町は多様な立場の人の意見や予算などの条件を調整しながら仕事を進めていかななくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町役場やバス会社に提案してアドバイスをもらい、提案書を修正する活動を通して嵐山町民としてまちづくりに参加していくことが大切であることや、政治の進め方について学んだ。 					

本実践におけるモビリティ・マネジメント教育の視点

10 学習の流れ

*「わたしたちの願いを実現する政治」第1時～第6時においては、「町道菅谷3号線」の整備事業を調べること
で、町役場や町議会の働き、租税の役割、国の政治の働きを学び、「わたしたちの住む国や地方公共団体の政治
は、わたしたちの代表がわたしたちの願いを実現させながら進め、わたしたちの生活の安定と向上を図るため
に大切な働きをしている。」ことを捉えた。その上で単元の後半「まとめる・生かす過程」(第7時～第14時)
において、モビリティ・マネジメント教育に取り組んだ。

学習内容・学習活動	授業・児童の様子
<p>7 町民アンケートの結果から、嵐山町の交通まちづくりに課題があることを知り嵐山町の交通環境について話し合う。</p> <p>①町民アンケートから課題を知る。 ・町民アンケートの結果から、嵐山町の交通まちづくりに課題があることを知らせる。</p> <p>②町民の要望から、嵐山町が目指すべき交通まちづくりについて考えてまとめる。</p>	 <p>【第7時 嵐山町の交通まちづくりの課題を調べる場面】 *子どもたちは、町民アンケートをもとに嵐山町民の交通に関する要望をまとめ、嵐山町が目指すべき交通まちづくりについて考えた。</p>
<p>8 車利用の長所と短所について考え、学習問題Ⅱを立てる。</p> <p>①保護者へのアンケート調査(保護者の声)をもとに、車が最も利用しやすい交通手段であることに気づく。</p> <p>②車の長所と短所について考える。</p> <p>③車の短所について話し合い新たな学習問題を立てる。 ・温室効果ガスにより、環境に負荷をかけてしまうこと(嵐山町の1990～2011年度における温室効果ガス増加率が県内第1位である事実を知らせ、今後温室効果ガスの削減に向けて努力していく必要性に気づかせる。)</p> <p>・交通弱者や渋滞の問題</p>	 <p>【第8時 ジレンマに気づく段階の児童のノート】</p>
<p>学習問題 環境によく、誰もが移動しやすいまちにするための提案書を考えよう。</p>	
<p>④学習問題Ⅱの予想をする。 ・環境によく誰もが移動しやすいまちにするには、どんな交通手段が必要か予想する。 例 バス 鉄道 自転車など ・教科書p25(一人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量)グラフからバス交通が鍵になることに気づかせる。</p>	<p>*嵐山町の1990～2011年度における温室効果ガス増加率が県内第1位である事実を知らせ、車利用の短所に焦点を当てて考えていくことで、車に依存した生活への問題意識を持つことができた。また、学習問題Ⅱの予想を立てたことで、公共交通機関や自転車など、提案書づくりの見通しをもつことができた。</p>

9 嵐山町を走るバスの現状や政策、先進事例について知り、提案への見通しをもつ。

①ゲストティーチャー（地域支援課の内田副課長さん）にバス事業について話して頂き、学習の見通しを持つ。

話して頂いた内容

- ・バス事業への町の関わり
運営主体 補助金や路線の設定
- ・嵐山町を走るバスの現状
路線 行先 本数 料金 バスの構造 等
- ・他市町村の先進事例
群馬県みどり市やときがわ町のデマンドバスの事例



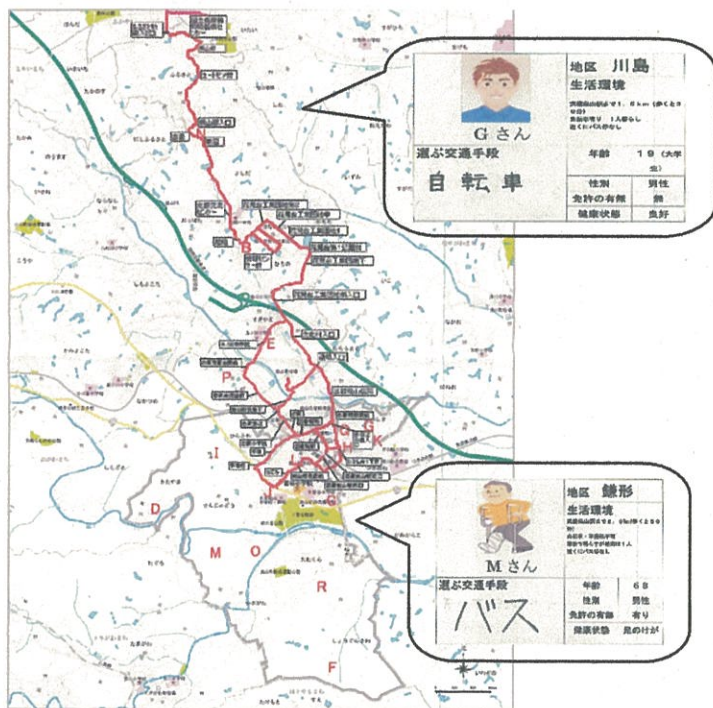
【第9時 ゲストティーチャーに話して頂いた様子】

*ゲストティーチャーに話を聞き、町がバス事業にどのように関わっているのかを知ることができた。また、先進地域の事例を話して頂くことで、提案書づくりへの見通しをもつことが出来た。

10 多様な町民の立場に立った移動の仕方について話し合い、交通まちづくりへの視点をもつ。

①立場によって様々な交通手段が必要であることを知る。

- ・人によって、どんな交通手段が選べるか考える。
年齢・免許の有無、その人の健康状態・生活環境（公共交通機関からの距離）、どこへ行くかなどによって、交通手段を選ぶ時の条件になること。
- ・交通手段の充実・整備、道路のバリアフリー化、バスなどの公共交通機関充実等が鍵になる



【第10時 多様な移動の仕方について考えた授業の様子】

*嵐山町の地図にバス路線やバス停の情報を加えた地図資料と町民カード（多様な町民の立場を記したカード）をもとに、その人がどんな交通手段を選択するかを考えたことで、嵐山町の交通まちづくりの視点（①道路の整備、②自転車道の整備 ③バス路線の工夫）に気づくことができた。

【第10時 交通まちづくりへの視点をもつための地図資料と町民カード】

1 1 地図をもとに交通まちづくりのアイデアを練る。

①嵐山町の道路やバス路線図、駐輪場などについて調べ、課題を見つける。

・個人で考えた課題をグループで話し合い課題を明確にする。

②課題に基づく提案グループをつくる。

- ・道路構造のバリアフリー化
- ・自転車横断帯や駐輪場の設置
- ・バス路線の増設とヘルパーバス
- ・バスの運行の仕方やポイントカード制
- ・予約バス制やバリアフリーバスの運行
- ・バス路線の増設とポイントカード・道路の整備

③提案書の書き方や調べ方を確認する。

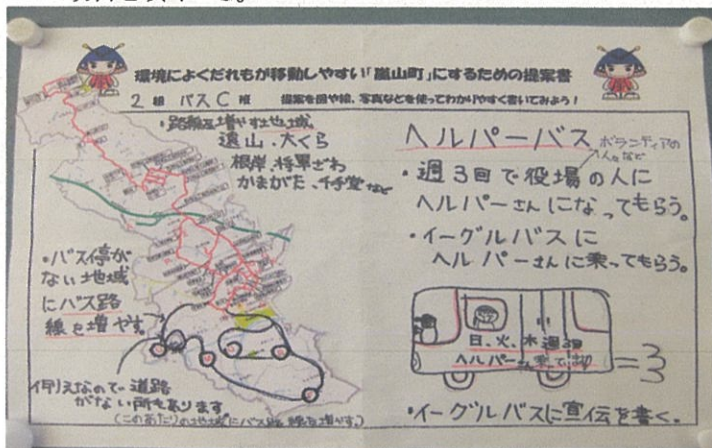
1 2 調べたことを生かし、提案書の作成をする。

○集めた情報をもとに、提案を提案書にまとめる。

○提案の原稿をつくる。

1 3 市役所の方やバス会社の方に提案をする。

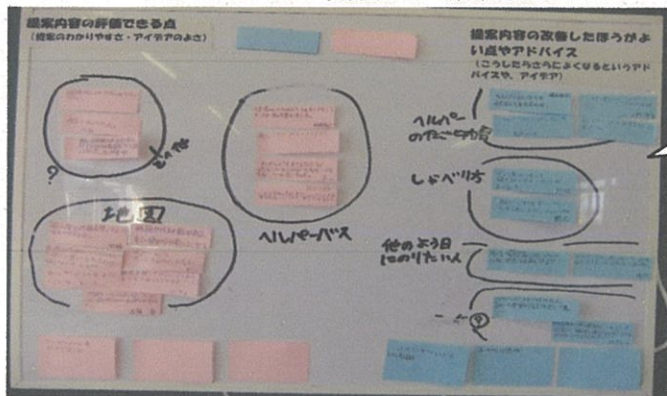
○役場の方やバス会社の方を招き、提案書の発表を行い、指導・助言を頂くこと。



【児童が作成した提案書】

○提案にゲストティーチャーからアドバイスを頂く。児童同士も他のグループへアドバイスをする。

ゲストティーチャー 嵐山町役場 地域支援課 内田副課長
イーグルバス 営業担当 堀米さん



【ゲストティーチャーや友達からもらったアドバイスをボードに整理】



【第11時・12時 グループで提案書を作る様子】

*提案書を作る活動は、町民の要望や交通環境など町について知る良い機会となった。



【第13時 町役場やバス会社への提案の様子】

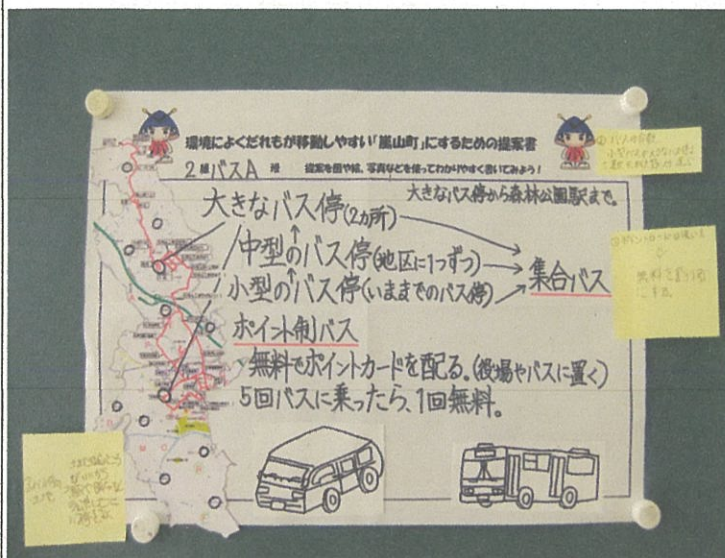
*子どもたちは、町役場の方やイーグルバスの方が提案を聞いてくれるということで意欲的になった。実際に提案する活動を通して町づくりに参画していく意識を高めることができた。

ゲストティーチャーや友達からもらった自分たちの提案へのアドバイスを赤（良かった所）と青（改善点）に分けてメモし、似た意見をまとめてキーワード化して整理していくことで、提案書の修正（次時）への見通しをもつことができた。

1.4 前時に頂いたアドバイスをもとに、提案書の再検討を行う。

○頂いたアドバイスについて改善策を考える。

- ・ゲストティーチャーからのアドバイスや、友達との意見交換を生かして提案書を修正し、仕上げていくこと。



【付箋紙に修正を記述した提案書】

○修正した自分たちの提案書について振り返る。

1 提案書を作成してみたの感想 (自分たちの作った提案書への感想)

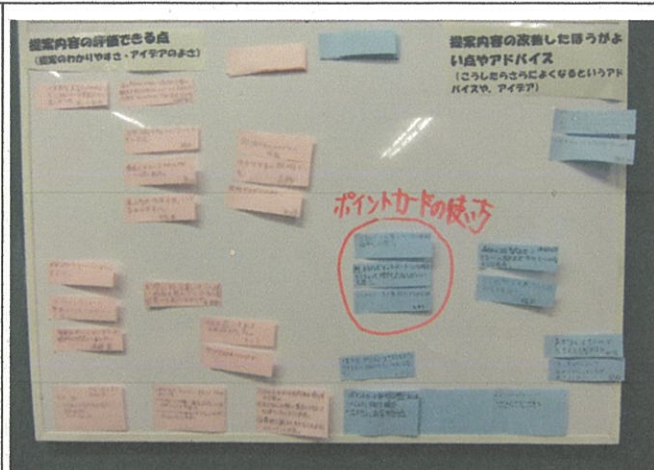
私はこの提案書を作っている時、「本当に実現したらいいな」と思いました。理由は、ほりごめさんが、「とてもいいですね!」とほめてくれたからです。最初は、おおくらや根岸、しょうぶさんへのほうにもバスを通らせられるか不安でした。でも、いいですね!とほめてもらったのでうれしかったです。今度町長さんがくるので、そこで実現しましょうと、とてもうれしかったです。

提案してアドバイスをもらう活動で評価され、交通まちづくりの参画への意欲をもつことができた児童

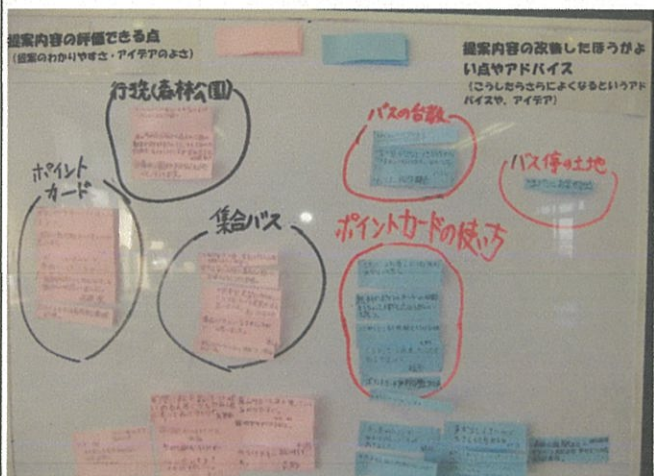
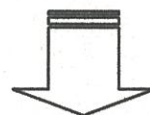
1 提案書を作成してみたの感想 (自分たちの作った提案書への感想)

班のみんなとバスについて提案書にしっかりまとめられたと思う。ほりごめさんが「ポイント制」バスのポイントカードで無料でバスに乗れることは禁止されているので割引にするのはどうでしょう?とアドバイスをくれました。なのでそのアドバイスをもとにまた提案したいと思っている。この学習をして、バスのことをもっと知ることができたので良かった。

バス会社の方からのアドバイスもらうことで、提案の修正に意欲的になった児童



【第13時終了時点のボード】



【第14時 修正点を明確にしたボード】

*授業の前半で、ホワイトボードに貼られた意見をさらに分類しキーワード化していく時間を取り、改善点を明確にした後に修正案を考えたことで、アドバイスをもとにした修正案を作成することができた。

*ゲストティーチャーから各グループへ「改善点」だけでなく「良い点」の評価をして頂いたことも子どもたちにとっては大いに励みになり、「実現したらいいな」「さらによい提案書にしていこう」といった交通まちづくりの参画への意欲をもつことができた。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

平成25年度 菅谷班社会科授業研究会

平成26年 2月20日(木)

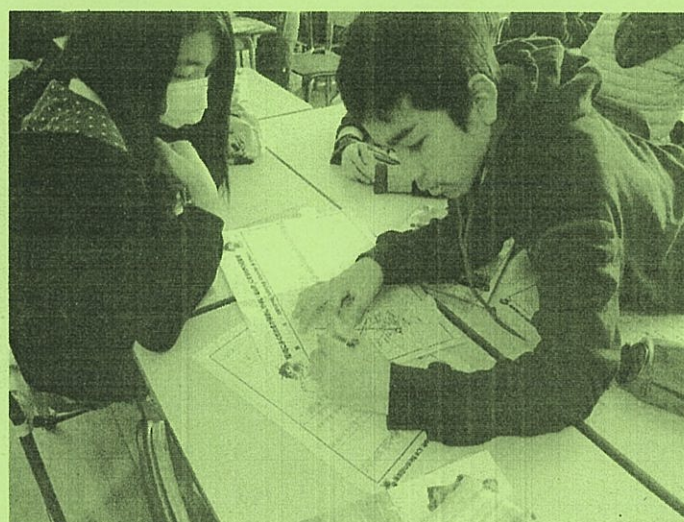
授業会場 6年2組教室

研究協議会場 視聴覚室

研究テーマ

問題を自分ごととしてとらえ、公正に判断し、社会に
参画する意識を高める指導の工夫

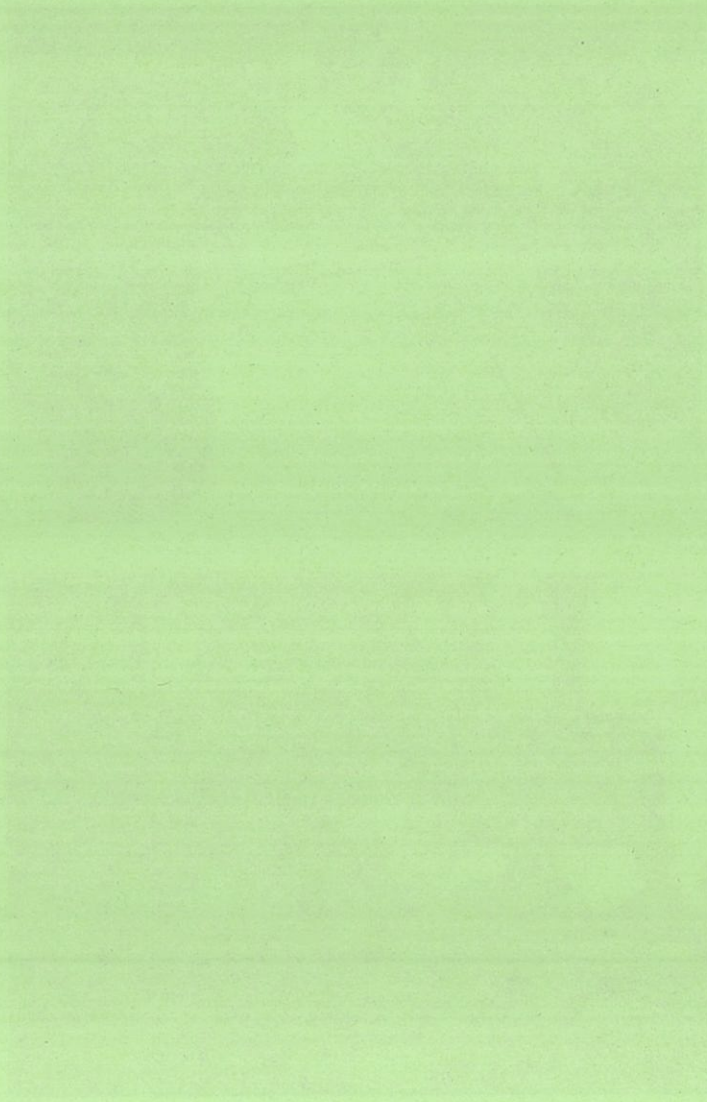
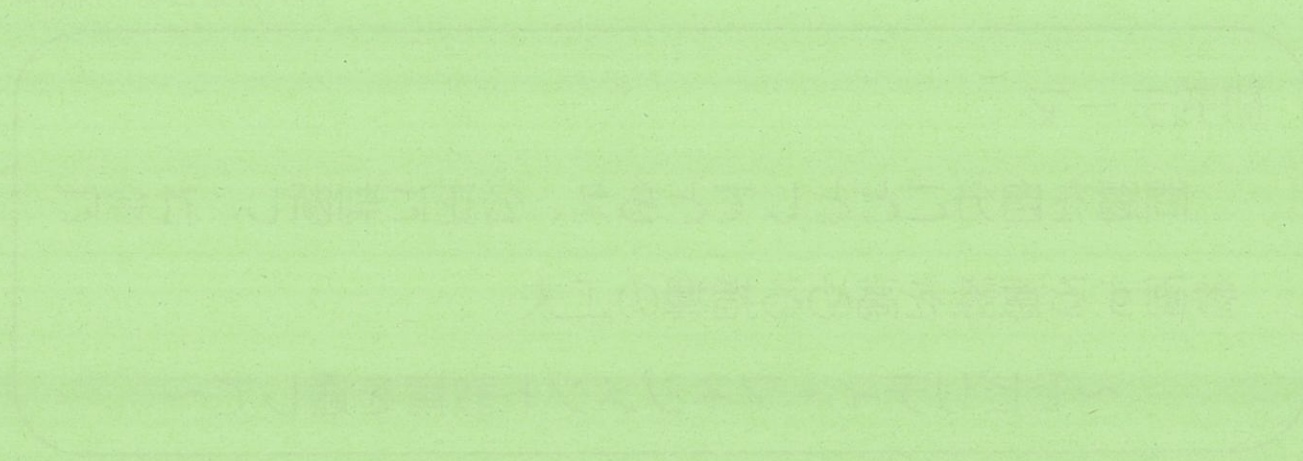
～モビリティ・マネジメント教育を通して～



小单元名 『わたしたちの願いをかなえる政治』
～人にやさしい交通まちづくり～

授業者 嵐山町立菅谷小学校

第6学年2組担任 岩田 信之



第6学年2組 社会科学学習指導案

平成26年 2月20日(木)

授業者 岩田 信之

場所 6年2組 教室

- 1 単元名 わたしたちの生活と政治 「(1) わたしたちの願いをかなえる政治」
- 2 小单元について

(1) 本学級の児童はこれまでの歴史学習で、問題解決的な学習過程を通して社会的な見方や考え方をに着けてきた。具体的には、資料の比較や読み取りを基にした学習問題を立てる過程を重視したり、調べる過程で得たキーワードをもとに単元を貫く学習問題の答えを導いたりし、問題を解決していく学び方を身につけている。また、理解に偏ることなく、思考・判断力を育成することを意識した授業を構成してきた。例えば、用語や語句を覚えるだけの学習ではなく、用語や語句の理解をもとに相関図を作成する活動を通して、事象間の関連や人物同士の関係、事実の意味や特色を考えるなどの学習を行ってきた。問題解決型の学習を通して、それぞれの時代に、様々な役割を果たした人物がいて、人物の働きが互いに絡み合い、事象同士が関連し合うことで歴史がつくられていくという見方を獲得している。

また、歴史は自分とのかかわりを感じにくい領域であるため、身近な素材を教材として扱うよう心掛けてきた。これまでの学習では、歴史学習の導入で嵐山史跡の博物館に行き身近な歴史について調べる活動や、「戦国の世から江戸の世へ」の学習では吉見町にある松山城について調べる活動、「世界に歩み出した日本」では埼玉の偉人である渋沢栄一について調べたりし自分たちの生活している地域にも歴史とのつながりがあることを知り、興味をもった児童もいる。

これまでの獲得した見方や考え方を、これから学習する政治の単元でも生かせるようにしていきたい。政治の学習も歴史学習と同様に、抽象的で概念的な学習になってしまい、魅力を感じにくい学習となってしまう。そこで、本単元では子どもたちにとって身近で具体的な事例を取り上げて学習を進めていく。単元の前半では、菅谷小学校裏の「町道菅谷3号線」の整備事業の過程を調べることで国の政治や地方公共団体の働き、租税の役割について学習していく。また、単元の後半では、モビリティ・マネジメント教育の考え方を取り入れ、嵐山の交通に関わる課題を取り上げ「人にやさしい交通まちづくり」をテーマに、町役場に提案する活動を取り入れることで、社会へ参画していく意識を高めること狙った。

(2) 本小单元は小学校学習指導要領解説社会編・第6学年の内容(2)アを基に設定した。我が国や地方公共団体の政治の働きについて、身近である「町道菅谷3号線」の整備について調べ、我が国の政治が国民生活と密接な関係をもっていることや、政治はわたしたち住民や国民の願いを実現し、国民生活の安定と向上のために大切な役割を果たしていることがわかることをねらいとしている。

指導計画の「つかむ」過程においては、「町道菅谷3号線」の整備について町民からの要望があったことを知らせ、整備される前の写真と整備後の写真をみせることで、だれが、どのようにして整備したのか、整備にはどのくらいの費用がかかったのか等の疑問を持たせた上で学習問題1の「わたしたちの願いであった町道菅谷3号線の整備は、だれのどのような働きによって実現していったのだろうか。」を立てる。次に「調べる過程」においては、教科書、資料集に加えてグラフや統計資料、町の広報などの各種資料をもとに調べ学習を行う。そして、「まとめる・生かす」過程においてはまずは学習したことを相関図にまとめ、学習問題1の結論を導き出す。結論を導く際は、個人で作成した相関図をクラス全体で話し合い、より抽象化された学習問題1の結論を導いていくようにする。

さらに本実践においては、「まとめる・生かす」過程を重視し、町民アンケートや町民の生活の様子から学習問題II「環境によく、誰もが移動しやすいまちにするための提案書を考えよう。」を立て、交通まちづくりを提案する活動を取り入れていく。「町道菅谷3号線」の整備事業で学んだことをもとに、要望実現のための方策を考えるが、調べる範囲が道路だけでなく公共交通にも広がることから、町役場の方をゲストティーチャーとして招き、交通まちづくりにおける町の役割について話してもらい提案作成の見通しを持てるようにする。その後、嵐山町の地図、バス路線図等の資料をもとに提案を作成していく。そして、町役場の方やバス事業者の担当者を招いて提案を行いアドバイスを頂く。その後、アドバイスを基に提案書を修正し振り返ることで、社会に参画する意識を高めていくことができるようにする。

3 研究テーマとその方策について

問題を自分ごととしてとらえ、公正に判断し、社会に参画する意識を高める指導の工夫
～モビリティ・マネジメント教育を通して～

(1) テーマ設定の理由

社会科の学習は、歴史においても政治においても自分とのかかわりを感じにくい学習である。そのため、どこか他人事で、用語や語句を覚えるだけの暗記中心の学習となってしまう、魅力を感じられないという課題がある。では、子どもたちが意欲的に取り組む社会科学習はどのような学習なのだろうか。これまでの実践から考えると、3年生のスーパーマーケットの学習や昔の道具の学習では、子どもたちがとても意欲的に取り組む姿を見た。これは、学習対象や課題が生活に直結していて、自分の生活経験を学習に生かすことが出来たり、学習を生活に生かすことができたりするからであると考えられる。子どもの学びにとって重要な役割を果たす教材について、佐伯胖（ゆたか）氏は次のように述べている。教材にとって大切な面は「教材そのものが学習者にとってわかりやすく、親しみやすい、ということであり、学習者にとって『身近な』ものとして捉えることができる側面である。自分の身の回りのことに結び付けて理解できる側面でもあるし、一人ひとりの子どもが自分なりの納得ができ、自分なりに『こだわる』ことのできる側面である。そのとき教材は『私のもの』になる。」これは、社会科の学習について言えば、学習対象を自分ごととしてとらえることの重要性を述べていると考えられる。すなわち、「どこか他人ごとで魅力を感じることが出来ない学習」を乗り越えるためには、子どもたちにとって身近な親しみやすい教材を扱い、実感や経験を生かし、自分の身の回りの事象と結びつけて考え、問題を自分ごととしてとらえることが必要なのではないかと考えた。

また、社会科の究極の目標は「公民的資質の基礎」を養うことである。学習指導要領では、児童一人ひとりに公民的資質の基礎を養うには、確かな理解と愛情を育て、問題解決的な学習の中で社会的な見方や考え方（多面的に考えたり公正に判断したりできる等の力）を養うとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことが大切であると書かれている。本単元の授業レベルで考えると、公民的資質の基礎は社会的事象に対する確かな理解の上で、他者とのかかわりの中で調べて身に付けた知識を再構成したり立場を変えて多面的に考えたりして独りよがりではない公正な判断をもとにした結論を導いたり、学習したことを生かしてよりよい課題の解決策を提案していく活動が「公民的資質の基礎」を養うことにつながるであろうと考えた。以上のことから、本研究主題を設定した。

(2) 研究テーマに迫る手立て

手立て1 問題を自分ごととしてとらえ、解決していくための地域教材の開発

○「町道菅谷3号線整備事業」と嵐山町の交通課題の教材化

児童にとって身近な社会的事象を取り上げることで、自分とのかかわりをとらえさせることができると考えた。町道菅谷3号線は菅谷小学校の北側にある道路で、通学路に指定されていて多くの児童が通学時に通っている道路であり、H23～H24年度にかけて整備された道路である。学習問題Ⅰでは、身近である「町道菅谷3号線整備事業」を窓口として、町の政治や租税の役割、国の政治の働きを調べていく。

また、学習問題Ⅱでは住民アンケートから嵐山町の交通に関する課題を読み取り、調べていく。H22年度に実施された町民アンケートによれば、「バス交通の利便性」についての不満度が55.5%、「道路の安全性」についての不満度が34.5%、「通学路の安全性」についての不満度が29.1%といずれも上位を占めている。このことから、嵐山町の公共交通に対する課題の解決を提案する活動を取り入れた。直接自分たちの生活と関係することへの提案は、提案への意欲を高め参画への意識を高めると考えた。

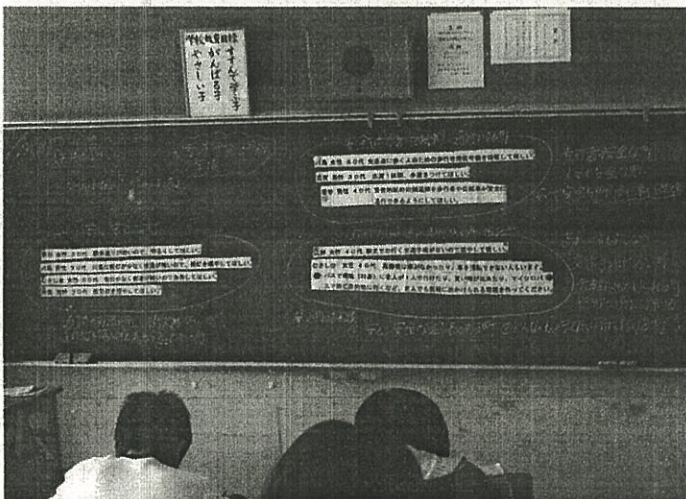
手立て2 社会的事象を公正に判断する指導の工夫

○学習問題の結論を導く過程

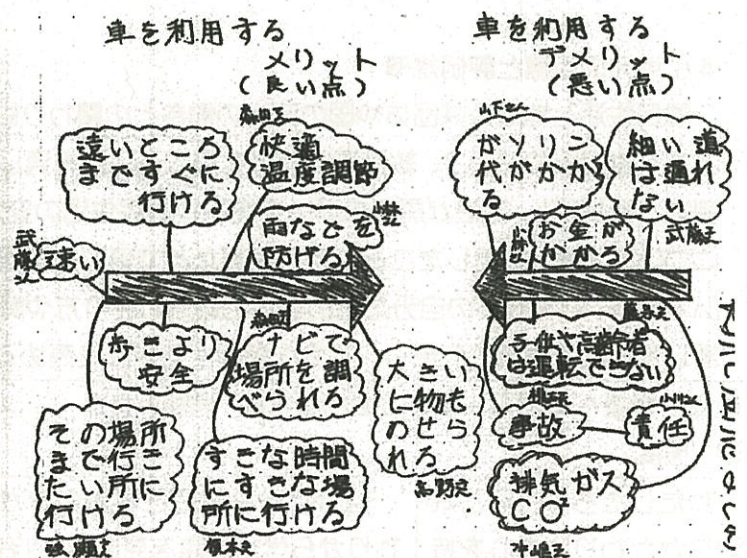
学習問題Ⅰの結論を導く過程では、社会的事象についてのより公正な結論を導くために個人で相關図を考えた後に学級全体で相關図を作成しより精選された相關図をもとに結論を考える。

○これまでの考え方をゆさぶり、新たな視点から学習問題Ⅱを設定

学習問題Ⅱの設定にあたっては、まず、町民アンケートから嵐山町の交通に関する課題を調べ、道路環境以外にも課題があることを知る。その上で、環境や人にやさしいというESDの視点から嵐山町の交通課題の解決策を考えていく。その際に、児童にとって最も身近で便利な車について話し合う活動を通して、車は便利であるが、過度に利用すると環境負荷が大きくなり交通弱者を生み社会全体の豊かさが低減してしまう、という社会的ジレンマに気づかせ、児童の車依存の考え方をゆさぶり「環境によく人にやさしい」という新たな観点から問題の解決に迫らせていく。



【第7時 嵐山町の交通まちづくりの課題を調べる場面】

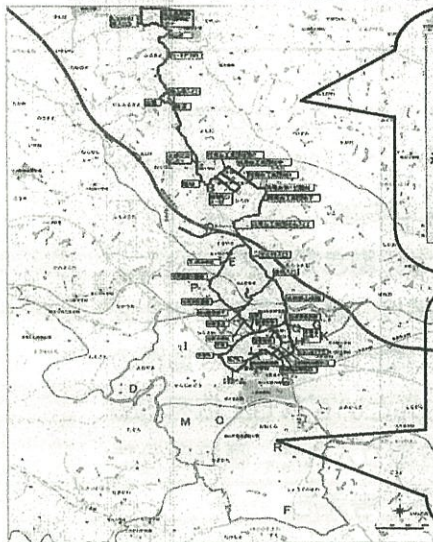


【ジレンマに気づく段階の児童のノート】

○多様な町民の立場から多面的に解決策を考える活動

学習問題Ⅱを考えていくにあたっては、居住している場所や立場によって、交通手段の選択が異なることに気づかせ、学習問題Ⅱの解決策を多面的に考えていく。児童の考えを生かして、複数の解決策を考えさせ、互いに提案を聞き合い、考えに触れさせることを通して多面的に考えていく。多面的に考えて導く

解決策は、より公正さを増した考えであるとする。



Gさん

地区 川島
生活環境
家屋敷面積が1.5km²(約100坪)
自動車台数: 1人暮らし
電気が通っていない

選ぶ交通手段
自転車

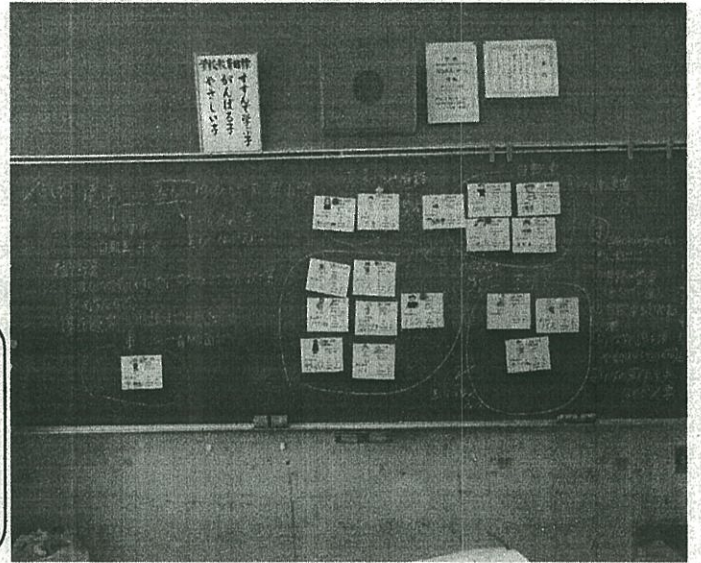
年齢	19 (大学生)
性別	男性
免許の有無	無し
健康状態	良好

Mさん

地区 鎌形
生活環境
家屋敷面積が2.2km²(約160坪)
自動車・軽自動車
電気が通っていない
道路幅員が狭い(1人暮らし)

選ぶ交通手段
バス

年齢	68
性別	男性
免許の有無	有り
健康状態	足のけが



【第10時 交通まちづくりへの視点をもつための地図資料と町民カード、板書】

○提案書を修正する活動

ゲストティーチャーや友達からのアドバイスをもとに、提案書を見直す活動を通してより公正さのある提案書に仕上げていく。

手立て3 社会に参画する意識を高める指導の工夫

○モビリティ・マネジメント教育を通して提案する活動を取り入れる。

モビリティ・マネジメントとは、「一人ひとりの移動や、まちや地域の交通の在り方を人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、工夫を重ねながらよりよいものに改善していく取組である。

嵐山町の道路や公共交通の在り方を、モビリティ・マネジメントの観点から町役場やバス事業者に提案していく活動を取り入れることで社会へ参画する意識を高めていく。

4 小単元の目標と評価規準

国民生活と地方公共団体や国の政治の働きとの関わりについて関心を持ち、町道菅谷3号線整備事業について文献資料やグラフ、統計資料などを調べることを通して、国の政治の働きや町の政治の働き、租税の役割などを理解し、政治が国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大きな働きをしていることについて思考・判断したことなどを言語などで適切に表現する。また、嵐山町の交通まちづくりの課題について調べ、これからの自分たちの生活と政治の在り方や関わり方を提案書に表現する活動を通して思考・判断したことを言語で表現し、社会へ参画する意識を高める。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
わたしたちの生活と政治のかかわりに関心を持ち、町道の整備事業や国の政治、嵐山町の交通まちづくりについて主体的に調べ、我が国の政治の働きと国民生活のかかわりを考えようとする。	自分たちの生活と政治のかかわりから学習問題を見出し、政治は国民生活の安定と向上のために重要な働きをしていることや、今後、自分がどのように政治にかかわろうとするか思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	国民生活には町や国の政治の働きが反映していることについて、アンケート調査、グラフや統計資料などの文献資料などを活用して調べノートやワークシートにまとめている。	政治はわたしたちの生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることや国民生活には、町や国の政治の働きが反映していることについて理解している。

5 知識の構造図

学習指導要領の「内容」との関連

内容(2)

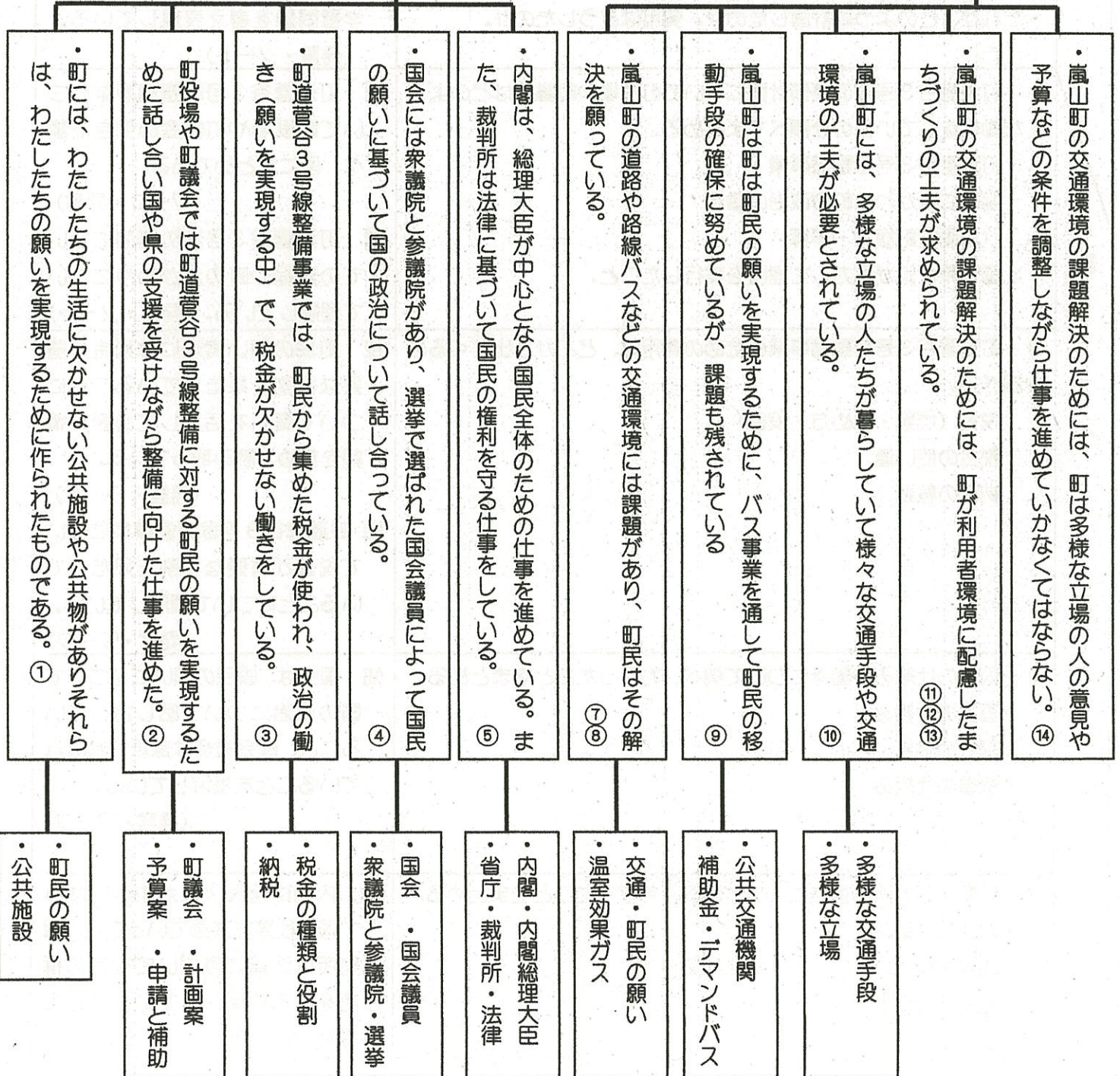
我が国の政治の働きについて、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、国民主権と関連づけて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。

ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。

中心概念

わたしたちの住む国や地方公共団体の政治は、わたしたちの代表がわたしたちの願いを実現させながら進め、わたしたちの生活の安定と向上を図るために大切な働きをしている。

(モビリティ・マネジメントの視点)



6 指導計画（14時間扱い）

*数字は時間を表す。 関：社会的事象への関心・意欲・態度 思：社会的な思考・判断・表現

（ ）は評価方法を表す。 技：観察・資料活用 of 技能

知：社会的事象についての知識・理解

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法
つ か む 調 べ る	<p>1 町にある様々な公共施設は、どんな願いで建設され、だれのためにあるものなのか話し合い、学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設 公共のもの ・資料から町道菅谷3号線整備の要望があったことを知る。 	<p>関 自分たちの生活と政治との関連について関心を持ち、話し合っている。（発言・ノート）</p>
	<p>小単元の学習問題！</p> <p>わたしたちの願いは、だれのどのような働きによって実現していったのだろうか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対する予想を立て、学習計画を立てる。 ・だれが、どのように計画したのか。費用はどうしたのか。 	<p>思 アンケートをもとに話し合い、学習問題を考え表現している。（発言・ノート）</p>
	<p>2 町道菅谷3号線の整備計画について町役場や町議会はどのような働きをしているのか調べてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町道菅谷3号線整備事業 ・整備にかかわる町の政治の動き（計画・町議会・予算） ・国や県、町が協力して建設を実行したこと。 	<p>技 町道菅谷3号線整備事業について町役場や町議会の働きを調べ、図にまとめている。（ワーク・発言）</p> <p>知 町道菅谷3号線の整備についての過程や町のかかわりについて理解している。（発言・ノート）</p>
	<p>3 町道菅谷3号線整備事業のための費用は、どこから出てくるのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金（種類・集め方・役割） ・税金の使い道 ・納税の義務 	<p>技 町民の願い実現には税金が重要な役割を果たしていることについて資料を活用して必要な情報を集めて読み取っている。（発言・ワーク）</p> <p>知 町道菅谷3号線整備事業について税金が重要な役割を果たしていることについて理解している。（発言・ワーク）</p>
<p>4 国会の仕組みや働きについて調べ、わかったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会の仕組み ・国会の働き ・選挙の仕組み 	<p>知 国会は、国民の願いに基づいて国の政治について話し合っていること、国会議員は選挙で選ばれていることを理解している。（発言・ワーク）</p>	
<p>5 内閣・裁判所の働きについて調べ、わかったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣の仕組み ・内閣の働き ・裁判所の働き ・三権分立 	<p>知 内閣は総理大臣が中心となって国の仕事を進めていること、裁判所は法律に基づいて国民の権利を守る仕事をしていることを理解している。</p>	

ま と め る ・ 生 か す	<p>6 町の政治とわたしたちの生活や国・県とのかかわりについてこれまでの学習を生かして関連図にまとめ、学習問題の結論を導き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードをもとに関連図を作成（個人→クラス） ・クラス全体で作った関連図をもとに、学習問題の結論を考える。 	<p>思 関連図をもとに、学習問題について話し合い、結論を導き出し表現している。（発言・ワーク）</p>		
	<p>学習問題Ⅰの結論</p> <p>私たちの願いは、わたしたちの住む町や国の政治の働きによって実現され私たち国民生活の安定と向上を図っている。費用は、税金が使われている。</p>			
	<p>7 町民アンケートの結果から、嵐山町の交通まちづくりに課題があることを知り嵐山町の交通環境について話し合う。</p> <p>①町民アンケートから課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民アンケートの結果から、嵐山町の交通まちづくりに課題があることを知らせる。 <p>②町民の要望から、嵐山町が目指すべき交通まちづくりについて考えてまとめる。</p>	<p>関 町民アンケートの結果から、嵐山町の交通に関心を持ち意欲的に調べたり考えたりしている。（発言・ワーク）</p>		
	<p>8 車利用の長所と短所について考え、学習問題Ⅱを立てる。</p> <p>①保護者へのアンケート調査（保護者の声）をもとに、車が最も利用しやすい交通手段であることに気づく。</p> <p>②車の長所と短所について考える。</p>	<p>思 車を利用することの長所と短所について話し合い、学習問題Ⅱを考え表現している。（発言・ワーク）</p>		
	<table border="1" data-bbox="151 1108 997 1400"> <tr> <td data-bbox="151 1108 582 1400"> <p>長所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所のすぐ近くまで行ける ・自分の使いたい時に使えるので待ち時間がなく利用できる。 ・自転車などの大きな荷物を運べる。 ・速く行くことができる など </td> <td data-bbox="582 1108 997 1400"> <p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排気ガス（CO₂など）が出る。 ・維持費がかかる。 ・子どもや高齢者は運転できない。 ・事故が起こる。 ・渋滞が起こる など </td> </tr> </table>	<p>長所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所のすぐ近くまで行ける ・自分の使いたい時に使えるので待ち時間がなく利用できる。 ・自転車などの大きな荷物を運べる。 ・速く行くことができる など 	<p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排気ガス（CO₂など）が出る。 ・維持費がかかる。 ・子どもや高齢者は運転できない。 ・事故が起こる。 ・渋滞が起こる など 	
<p>長所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所のすぐ近くまで行ける ・自分の使いたい時に使えるので待ち時間がなく利用できる。 ・自転車などの大きな荷物を運べる。 ・速く行くことができる など 	<p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排気ガス（CO₂など）が出る。 ・維持費がかかる。 ・子どもや高齢者は運転できない。 ・事故が起こる。 ・渋滞が起こる など 			
	<p>③車利用の短所について話し合い、新たな学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスにより、環境に負荷をかけてしまうこと（嵐山町の1990～2011年度における温室効果ガス増加率が県内第1位である事実を知らせ、今後温室効果ガスの削減に向けて努力していく必要性に気づかせる。） ・交通弱者や渋滞の問題 			
	<p>学習問題Ⅱ 環境によく、誰もが移動しやすいまちにするための提案書を考えよう。</p>			
	<p>④学習問題Ⅱの予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境によく誰もが移動しやすいまちにするには、どんな交通手段が必要か予想する。 <p>例 バス 鉄道 自転車など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p25（一人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量）グラフからバス交通が鍵になることに気づかせる。 			

ま と め る 。 生 か す	<p>9 嵐山町を走るバスの現状や政策、先進事例について知り、提案への見通しをもつ。</p> <p>①ゲストティーチャー（地域支援課の内田副課長さん）にバス事業について話して頂き、学習の見通しを持つ。</p> <p><u>話して頂く内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス事業への町の関わり 運営主体 補助金や路線の設定 ・嵐山町を走るバスの現状 路線 行先 本数 料金 バスの構造 等 ・他市町村の先進事例 群馬県みどり市やときがわ町のデマンドバスの事例 	<p>知 嵐山町を走っているバスの現状や先進地域の事例について知る。</p> <p>（発言・ワーク）</p>
	<p>10 多様な町民の立場に立った移動の仕方について話し合い、交通まちづくりへの視点をもつ。</p> <p>①立場によって様々な交通手段が必要であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって、どんな交通手段が選べるか考える。 年齢・免許の有無、その人の健康状態・生活環境（公共交通機関からの距離）、どこへ行くかなどによって、交通手段を選ぶ時の条件になること。 ・交通手段の充実・整備、道路のバリアフリー化、バスなどの公共交通機関充実等が鍵になる 	<p>知 町には、様々な立場の人がいて目的によって多様な交通手段を選んでいることを理解している。</p> <p>（発言・ノート）</p>
	<p>11 地図をもとに交通まちづくりのアイデアを練る。</p> <p>①嵐山町の道路やバス路線図、駐輪場などについて調べ、課題を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた課題をグループで話し合い、課題を明確にする。 <p>話し合った課題をもとに、アイデアを話し合う。</p> <p>②課題に基づく提案グループをつくる。</p> <p>③提案書の書き方や調べ方を確認する。</p>	<p>技 嵐山町の地図資料や写真資料から課題を読み取っている。</p> <p>（発言・ワーク）</p> <p>技 地図や写真資料をもとに学習問題について話し合い、白地図や提案書に表現している。（提案書）</p>
	<p>12 調べたことを生かし、提案書の作成をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報をもとに、提案を提案書にまとめる。 ○提案の原稿をつくる。 	<p>思 各種資料から読み取ったことをもとに、解決策を考えている。</p> <p>（発言・ワーク）</p>
	<p>13 市役所の方やバス会社の方に提案をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○役場の方やバス会社の方を招き、提案書の発表を行い、指導・助言を頂くこと。 ○提案の相互評価を行う。 <p>ゲストティーチャー 嵐山町役場 地域支援課 内田副課長 イーグルバス 営業担当 堀米さん</p>	<p>思 自分たちが考えた提案書を理由や根拠を明確にしながら発表し、修正への見通しをもつことができる。（発表・ワーク）</p>

<p>14 前時に頂いたアドバイスをもとに、提案書の再検討を行う。</p> <p>○頂いたアドバイスについて改善策を考える。(個人→グループ)</p> <p>・ゲストティーチャーからのアドバイスや、友達との意見交換を生かして提案書を修正し、仕上げていくこと。</p> <p>○修正した自分たちの提案書について振り返る。</p>	<p>関 積極的に改善策を考え、これからの社会に参画しようとしている。(発言・態度)</p>
---	--

7 本時の展開 (13/14)

(1) 目標

自分たちが考えた提案書を理由や根拠を明確にしながら発表し、修正への見通しをもつことができる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 展開

学習活動・学習内容	評価と指導の工夫	資料・準備	時間
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時の課題を知り、見通しを持つ。</p>	<p>・小単元の学習問題の確認をする。</p>	<p>前時までに作成した提案書</p>	<p>5</p>
<p>本時の課題 提案書の発表をして、さらによい提案書をつくるための見直しをしよう。</p>			
<p>2 提案書の発表会をする。</p> <p>①道路構造のバリアフリー化 ②自転車横断帯や駐輪場の設置 ③バス路線の増設とヘルパーバス ④バスの運行の仕方やポイントカード制 ⑤予約バス制やバリアフリーバスの運行 ⑥バス路線の増設とポイントカード</p>	<p>・発表会の手順を確認</p> <p>・1グループ3分以内で発表</p> <p>・1グループの発表が終わったら、2分程度のコメントを頂く。</p> <p>*発表とゲストティーチャーからのコメントを交互に行う。</p> <p>・ゲストティーチャーには、あらかじめ提案の概要を知らせておく。</p>	<p>・メモ用紙</p> <p>・付箋紙</p>	<p>25</p>
<p>3 アドバイスをもとに、提案書の修正点を明確にする。</p>	<p>・自分たちのグループの提案のどの部分を修正するかの見通しを持たせる。</p> <p>・付箋紙に自分たちの提案の良かった所と課題を整理し、ホワイトボードに貼らせる。</p> <p>★提案書の発表をして、役場の方やバス会社の方からの指導・助言をもと修正の見通しをもつ。(発表・ワーク)</p>		<p>15</p>

8 備考 在籍児童数 男子13名 女子16名 計29名

1. 本邦の経済成長と国際貿易の促進
 2. 資源の確保と環境保護の両立
 3. 技術革新の推進と人材育成
 4. 社会福祉の充実と生活の安定
 5. 国際協調の推進と平和の維持

6. 持続可能な開発の実現
 7. 国民生活の向上と社会正義の確保
 8. 国際競争力の強化と貿易の自由化
 9. 環境問題の解決と持続可能な社会の実現
 10. 文化の振興と国際文化交流の推進

項目	名称・概要	実施内容・進捗状況	効果・成果
1	経済政策	1. 財政政策の抜本的改革 2. 金融政策の柔軟化 3. 産業政策の強化 4. 労働政策の抜本的改革 5. 社会保障制度の持続可能な運営	1. 財政健全化の進展 2. 金融市場の安定 3. 産業競争力の向上 4. 労働生産性の向上 5. 社会保障制度の持続可能性の確保
2	環境政策	1. 気候変動対策の強化 2. 資源循環型社会の実現 3. 自然環境の保全 4. 公害防止の徹底 5. 環境教育の推進	1. 温室効果ガス削減率の向上 2. 資源循環率の向上 3. 自然環境の保全率の向上 4. 公害防止率の向上 5. 環境教育の普及率の向上
3	社会政策	1. 少子化対策の強化 2. 高齢者の生活の安定 3. 障害者の社会参加 4. 子育て支援の充実 5. 介護保険制度の持続可能な運営	1. 出生率の向上 2. 高齢者の生活満足度の向上 3. 障害者の社会参加率の向上 4. 子育て支援の充実度 5. 介護保険制度の持続可能性の確保